

# 技術・家庭科（家庭分野）

橋本 正恵

研究協力者 綿引 伴子(金沢大学)

## 1. ESDの取り組みにあたって

本校では、平成26年4月よりESDに関する国立教育政策研究所の研究指定を受け、研究課題を「持続可能な社会の形成者として必要な能力や資質の育成～教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して～」と定めて、各教科等の連携を中心としたESDの在り方を模索し、研究を行っている。各教科等の学習が持続可能な社会の形成のために生きて働く力となるよう、教材や題材のつながりを意識した学習活動の工夫を行ってきた。そして本年度はその3年次として副題を「～生徒の深い学びとカリキュラムの開発を通して～」と設定しなおして、より生徒の3年間の学びの時間軸を意識したカリキュラムの開発を目指している。

技術・家庭科の各学習内容は、生徒の生活そのものと深く関連しているものであり、各教科等で学習した内容が現在や将来のそれぞれの生活とどのように関わって行くかをつなぐ学習となれる。そのような教科の特性を生かして、技術・家庭科の学習では常に個々の生徒の生活の中にある課題や疑問を見取り、その解決に向けて思考をすることをねらった題材計画を工夫していくことを重視している。

また、技術・家庭科家庭分野は、「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」「D身近な消費生活と環境」の4つの内容から構成されている。そして「D身近な消費生活と環境」の学習に関しては、取り扱い方について学習指導要領解説に「適切な題材を設定し、『A家族・家庭と子どもの成長』、『B食生活と自立』又は『C衣生活・住生活と自立』の学習と相互に関連を図り、総合的に展開できるよう配慮する。」とされており、単独で消費や環境について扱うのではなく、他の内容の学習とともに題材を構成し、同時に学習するとされている。わたしたちの生活は消費者としての視点や環境との関わる視点がなくては成り立たない。そのため「D消費生活と環境」は、学習において習得された知識や技能を生活の中でどのように活用されるのかを結びつける鍵となる学習である。大きな目で捉えれば、技術・家庭科の学習では、どの内容を扱うときにも、環境や自分たちが置かれている社会の状況と切り離すことはできない。つまり生徒の学びをより深いものにするためには、常にESDの視点を意識して題材を工夫しなければならないと考えている。

技術・家庭科家庭分野の学習の多くの内容において、ESDとの関連が重要であり、社会の形成者としての資質や能力を育成することが最終的な目標となる。具体的なESDとの関連の持ち方の例について、以下に示す。

### 【持続可能な社会づくりの構成概念と家庭分野の学習とのつながりの具体例】

- I 多様性…世界には多様な生活スタイルがあり、またどの人にもそれぞれの生活スタイルがある。
- II 相互性…自分たちの生活は、世界の国々や環境と関連してあるということを理解する。
- III 有限性…生活に必要なエネルギー・水・食料などは有限であることを考えて生活工夫する。
- IV 公平性…エネルギーなどの資源を利用するときは、世界のすべての人が公平であることを理解する。
- V 連携性…家族や地域の生活は、いろいろな人がそれぞれの仕事を担って成り立っていることを理解する。
- VI 責任性…家族の生活をよりよくするために、自分の仕事に責任をもって実践をすること。

## 2. 能力・態度の育成にあたって

### (1) 家庭分野の授業における能力・態度の育成について

技術・家庭科の学習とE S Dについて、学習指導要領解説の中で、以下のように具体的にE S Dと関連が示されている。「社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。」とあり、個人としてよりよい生活を営むことと同時に、社会の一員として社会に参加し、よりよい社会を形成していくことが教科の目標であるとしている。そのため技術・家庭科家庭分野の学習においては、扱うすべての内容でE S Dの視点に立った学習を構築することを目指し、学習の中で得た知識や技術が個々の生徒の生活の中でいきで働く力となるような題材の工夫が求められる。そのような学習の中では、E S Dが求めるすべての概念・能力が関連してくることはもちろんであるが、その中でも特に「①代替案の思考力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ⑦進んで参加する態度」の育成に重点をおいた学習指導に重点を置いて題材の構成にあたった。

#### 【授業での能力・態度の例について（実践事例より）】

- ① 代替案の思考力：食品群別摂取量の目安に基づいて作成した1日分の献立について、別の観点（日本のよさを取り入れる）からよりよい献立になるよう工夫をする能力。
- ② 未来像を予測して計画を立てる力：わたしたちの衣生活について、現状の問題点を把握し、よりよい未来に向けて、個人ができることや社会全体で取り組みたいことを考え、実践しようとする能力。
- ⑦進んで参加する態度：持続可能な社会をつくっていくために、普段の衣生活について自分たちができることを考え実践できる能力。

### (2) 深い学びとの関連について

家庭分野の学習は前述の通り、各教科等の学習内容と生徒個人の生活をつなぐ役割を担っている。扱う学習内容は生徒の生活の中にある課題を発見し、その課題の解決に向けて知識や技能を活用して、生活を工夫していくという一連の学習の過程が重要である。単独の知識・技能の取得ではなく、それらが、実際の生活をよりよくするための手段となる学習とならなければならない。学習におけるどの題材を設定する際にでも、常に生徒の生活の中から課題を発見・設定し、生活をよりよくするという目標を目指して各学習を位置づけるような形は、いわゆるアクティブラーニングとしてふさわしい学習の流れであり、そこに生徒の生活者としての主体的な学びが合わさってよりより深い学びへとつながっていくと考えている。

### (3) 教材の「つながり」について

技術・家庭分野の学習は、3年間を通して履修計画を作成することができるが、他教科と大きく違うことである。よって、他教科の学習と連携をはかる時、他教科の学習の時期を考慮して計画を組み直すことが可能である。今後、他教科の3年間の学習計画を参考に、よりつながりの深い年間計画を作成したいと考えている。

### 国際理解の分野におけるつながり

「B 食生活と自立」の献立作成の学習において、最初のステップとして、食品群別摂取量の目安に基づいて、一日分の献立例を考えた。この時点で、各生徒は栄養バランスの面では適切な献立を作成することができた。その後、次のステップとして考えた献立例の点検・評価をした。1ステップ目で完成した献立を違う観点から評価をした。社会の地理分野の学習で、寒い地方（ロシアやアラスカ）に住む人々の生活について学習したことを受けて、日本で暮らすわたしたちの生活（特に食生活）の特色について考え、日本のよさを取り入れて、献立をよりよくする工夫をした。これまでの献立作成の学習では、栄養バランスのみに関わりがちだった。今回、社会の授業とつながることで、いろいろな観点から献立を工夫することができるということが、より深く理解できた。また、社会・家庭の取り組みの後、英語の授業でも国際的な食文化について学習する機会があり、生徒はより深く自分や世界の人々の食文化について興味を持つことができた。

### 環境の分野におけるつながり

「C 衣・住生活と自立」の衣服の成り立ちを扱う学習では、昨年度より2年生で題材「100人の村―衣生活編―をつくろう」に取り組んでいる。生徒が自分自身の衣生活をふり返り、その中から課題を発見し、解決策を考える学習をおこなった。同じ時期に、英語の授業では、環境問題や資源の有限性についてのセヴァン=スズキのスピーチを教材として学習をすすめており、両方の授業がよい形につながることができた。セヴァン=スズキをまねて、生活を変えるために「自分自身が実践すること」と「社会に働きかけていきたいこと」を考えた。

## 3. 成果と課題

これまでの研究課題の副題である「教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して」について、昨年度の研究における成果と課題として、以下のことがあげられた。

（成果）：多くの教科等と関連を図った題材の開発ができた。

E S Dの視点から教科の学習内容を捉えなおすことができた。

（課題）：3年間を見通した学習計画としては教科としてのよりよい題材やその配列より、E S Dの内容を優先したのになってしまったことがあった。

E S Dや他教科と連携した学習の内容のしぼりこみ・精選ができなかった。

また今年度、研究副題として「生徒の深い学びとカリキュラムの開発を通して」が加わり、「深い学び」を目指して教科としてのよりよい題材の開発やカリキュラムの工夫を試みた。教科の学習としては、習得した知識や技能を実生活の中で活用し、よりよい生活を創り出す工夫をするという一連の学習が「深い学び」に関わると考えている。そのためには、教科としてのさらなる3年間を見通した題材の工夫と学習内容の精選が重要である。今年度は学習の内容の精選に取り組むことはできた。ただし、E S Dの視点から育成したい資質・能力に関わる題材の構成を優先して考えたため、教科としてねらいたい「深い学び」を目指す題材の構成や工夫が今後への課題として残った。次年度以降、引き続き生徒の「深い学び」を導くための3年間を見通した学習計画の工夫に取り組みたい。

1 題材名 災害に備えよう

2 ねらい

災害に備えて食料備蓄の仕方や調理の方法について知り、実践にむけて考える。

3 学習活動

- (1) ・災害時体験の新聞記事を読み、自分だったらどうなりそうか考えてみる。
- ・ローリングストック法について知る。

食料備蓄の例

☆とにかく\_\_\_\_日は  
ライフラインが断たれても生活できるように☆

1. 備蓄の量について考えよう！

備蓄の最小量！これだけは！

①	米	1人1食分
②	水	1人1食分
③	食料	1人1食分
④	その他	1人1食分

2. 本題が授業で体験する内容です。必ず、事前の準備をしっかりと行い、授業中に実践してください。

3. 授業終了後、各自の準備状況を報告し、感想を述べよう。

4. 授業終了後、各自の準備状況を報告し、感想を述べよう。

(2) ◎問題解決場面

「3日間生き延びるための食糧備蓄について考えよう」

- ・自分の家の食料備蓄の量と内容を点検する。

(例) 水 2リットル×3日×人数

米・めん・もち×3食×3日×人数

おかず（乾物・レトルト食品など）×3食×3日×人数

- ・足りないものを書き出そう！
- ・体験記事をもとに、備蓄の工夫を考えよう。
- あたたかいもの・野菜などもあるといい

- ・最低限の備蓄にプラスして、家族から笑顔が出るような

「我が家のご機嫌アイテム」を考えよう。」

- お気に入りのふりかけ・好きなおやつ・ちょっと豪華な缶詰・食べなれたスナックなど



ポリ袋炊飯

- (3) まとめ 家の中の食料備蓄を実際に点検し、家族と話し合おう。

- (4) 次回災害時炊飯の体験授業。各自米60グラムと「ご機嫌アイテム」を準備する。

4 ESDとの関連

(1) 構成概念

V 連携性

(2) 能力・態度

- ②未来像を予測して計画を立てる力 過去や現在の情報に基づいて、将来を予想・予測することが出来る ウ

【教科等の力】災害時の様子を自分の生活にあてはめて考え、災害に備えた食生活の工夫をする力。

(3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 防災
- ②教科 保健体育
- ③題材 自然災害への備えと避難

1 題材名 食生活と自立（ゴミの減量）
2 ねらい 自分の生活が環境に与える影響について知り、よりよい生活をおくれるよう考え工夫することができる。
3 学習活動 事前学習：自分の住んでいる地域のごみの分別や収集のスケジュールを調べてくる。 (1) 学校や住んでいる地域のごみの分別の仕方について知る。 学校：「燃やすごみ」と「プラ」の二種類のごみ箱が教室にある。 家：「燃やすごみ」「プラスチック」「ペットボトル」「びん」「埋め立てごみ」「新聞」「雑誌」「牛乳パック」「衣料品」など。 小学生の時にいったごみ処理場の見学で見たことや知ったことを思い出す。 ・地域によって分別の種類・方法や処理の方法も違うね！ (2) ごみが処理されるサイクルや環境に与える影響について知る。 ◎問題解決場面 環境に与える影響をできるだけ少なくするためにできることは何か。 家でしていること → リサイクルする（カン・ペットボトル・牛乳パックなど） 生ごみの水気をきる・すいかの皮を乾かしてすてる 食べ残しを減らす・消費期限をよく見て買う マイバッグを使う これから実践したいこと → 野菜の廃棄していた部分を使ってクッキング 包装の少ない商品を選ぶ いらぬものは買わないようにする (2) まとめ ごみの減量のために、自分が取り組みたいと思うことを具体的に設定し実践レポートにまとめよう。
4 ESDとの関連 (1) 構成概念 Ⅲ 有限性 Ⅵ 責任性 (2) 能力・態度 ②未来像を予測して計画を立てる力 ウ・過去や現在の情報に基づいて、将来を予想・予測することができる。 【教科等の力】自分の生活と環境との関わりについて知り、よりよい生活をつくる力。 (3) 教材の「つながり」 ①ESD関連分野 環境 ②教科 英語 ③題材 リサイクル活動 ②教科 理科 ③いろいろな素材とその性質

## 1 題材名 郷土料理を定番化しよう

## 2 ねらい

- ・石川の郷土料理や郷土の食を自分の生活に取り入れようとしている。 【関心・意欲・態度】
- ・食生活をよりよくするために、自分の生活に郷土料理を取り入れる工夫をしている。 【工夫・創造】
- ・地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。 【技能】
- ・消費生活と環境とのかかわりを理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【知識・理解】

## 3 学習活動

これまでの学習の振り返り

「地産地消のメリットとデメリット」→「郷土料理が定番化しない理由」→「定番化作戦」  
スライドでここまでに至った各班の考えの流れを紹介する。

調理実習で取り上げる案を検討する

前時の改善案をもとにして、班としての案を1つにまとめ、キーワード化してA3のシート  
に書かせる。

シート・マジックペン 各8 配付

班からの意見を発表する

- ・スライドでこれまでの思考の流れを示し、班での意見を発表させる。
- ・キーワードを示し、簡潔に意見を伝えるよう伝える。
- ・発表を聞く側は、意見をメモしながら聞く。

発表された案にアドバイスを

しあう。

- ・クラス全体が意欲的に臨めるような実習につなげることを予告する。
- ・ふだんから、郷土の食などに興味を持って過ごしてほしいことを伝える。

## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I「多様性」：世界や日本のいろいろな地域には多様な食文化があることを理解する。

VI「責任性」：文化を受け継いでいくのは自分たち自身であるという意識を持つ。

## (2) 能力・態度

能力①代替案の思考力 イ

【教科の目標（評価規準）】

食生活をよりよくするために、自分の生活に郷土料理を取り入れる工夫をする力。

【工夫・創造】

## (3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 地域文化財・世界遺産
- ②教科 社会
- ③題材 地理分野 「東北地方」

1 題材名 世界がもし100人の村だったら—衣生活編—

2 ねらい

- ・自分の衣生活をよりよくすることに関心を持ち、調査などに主体的に取り組む。

【関心・意欲・態度】

- ・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して工夫したりする。

【工夫・創造】

- ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解する。

【知識・理解】

3 学習活動

(1) **グループ活動前**時に考えた「解決したい課題」（捨てる量が多い・農薬の被害・発展途上国と先進国との格差など）を確認し、各班で課題の原因を整理する。→発表・共有する

(2) **グループ活動**「解決したい課題」に関する「解決策」を考える。→発表・共有する

(3) **個人活動**英語の授業で学習したセヴァン=スズキのスピーチの言葉を提示して、課題を解決するために自分たちができることを考え発表する。

→①You must change our lifestyles.

**個人活動**世界のリーダーに対する要望を考え発表する。

→②Severn said to the world leaders.

ワークシート例

**Let's do like Severn!**

1) You must change our lifestyles.  
自分のライフスタイルを見直してみよう。

○ バスケットシューズに穴が開いた。すぐに捨ててしまうので、最後まで使いたさう。  
自分が着たいと思った服でも、何度も考えてから買う。

2) Severn said to the world leaders.  
世界の指導者たちに呼びかけて、見直しよう。

○ CO<sub>2</sub>が出ない発電方法を考えて下さい。  
物をいっぱい作らないで下さい。

4 ESDとの関連

(1) 構成概念

II 「相互性」：自分の衣生活・消費生活が世界中の人や国と関わっていること。

VI 「責任性」：よりよい生活をおくるために、一人一人が社会の一員として自ら進んで社会に参加すること。

(2) 能力・態度

能力②未来像を予測して計画を立てる力 ウ

【教科の目標（評価規準）】

環境に配慮した消費生活について考えたり、実践に向けて工夫したりする力。

(3) 教材の「つながり」

①ESD関連分野 リサイクル

②教科 英語

③題材 If You Wish to See a Change (2年)

## 1 題材名 食生活と自立 -献立の工夫-

## 2 ねらい

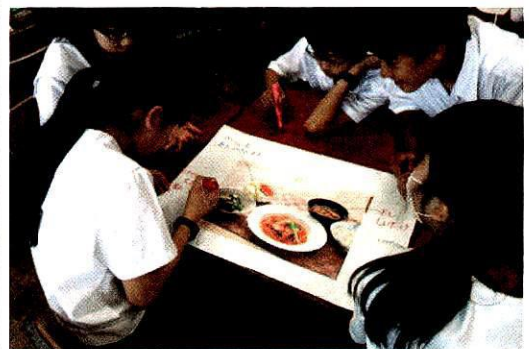
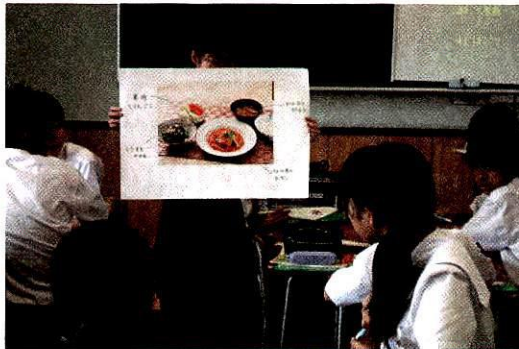
- ・日本の食生活の特色に気づくことができる。【関心・意欲・態度】
- ・目的に沿って献立がよりよくなるように工夫することができる。【工夫・創造】

## 3 学習活動 よりよい献立のための工夫を考えよう

- (1) ステップ1：栄養バランスの視点からよりよい献立を考える
- (2) ステップ2：日本の食生活の特色を取り入れた視点からよりよい献立を考える。

問題解決場面 目標「日本の食生活の特色を取り入れて、献立を工夫しよう」

- ①社会科「寒暖の差が激しい土地にくらす人々」で学んだ、世界の人々の食生活の特徴に照らし合わせて、日本の食生活の特徴について考える。季節の素材 米 魚と肉 など
- ②日本の食生活の特徴を取り入れた献立について考える。



## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I 多様性…世界の人々の食生活には、さまざまな特色やよさがあること。

## (2) 能力・態度

- ③多面的、総合的に考える力 オ

## 【教科の目標（評価規準）】

中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫する力。

## (3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 国際理解
- ②教科 英語科，社会
- ③題材 「国際フードフェスティバル」（英語科 1年）  
「寒暖の差が激しい土地にくらす人々」（社会 1年）